

# 境港湾・空港整備事務所におけるSDGsの達成に資する取組について

私ども境港湾・空港整備事務所では、以下の取組をはじめとする各種施策を通じてSDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献するとともに、鳥取県内、島根県内の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。



## 鳥取港防波堤の整備

鳥取港は、国際物流ターミナル（水深10m）等を中心に、山陰地方東部経済圏の拠点となっていますが、冬季風浪等の影響により、港内での荷役作業に支障が生じています。  
 このため、1999年度から、千代地区において防波堤（第1）（西）の整備を行っています。



## 現場見学会・出前講座の実施

境港湾・空港整備事務所では、国で行っている工事や港の役割を広く知ってもらうために、港の現場見学会や出前講座を無料で行っています。  
 普段、間近で見る機会の少ない港での仕事や、みなさんの生活に欠かすことのできない様々な貨物が港を経由して運ばれていることなどをわかりやすく説明させていただきます。【目標】2022年度:3回／年 → 2030年度:6回／年



## 浜田港防波堤の整備

浜田港は、セメント、原木、石炭等を取扱う物流拠点として、地域の産業活動を支える重要な役割を果たしていますが、冬季風浪等の影響により、港内での荷役作業に支障が生じています。  
 このため、1998年度から、福井地区において防波堤（新北）の整備を行っています。



# 宇野港湾整備事務所におけるSDGsの達成に資する取組について

私ども宇野港湾事務所では、以下の取組をはじめとする各種取組を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献するとともに、岡山県内の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図っています。



## 日本の食糧生産を支える港湾整備

国際バルク戦略港湾である水島港は、穀物取扱企業が多数集積し食糧コンビナートを形成しています。飼料原料を輸送する大型貨物船が着岸できる大水深岸壁などの整備を実施しており、西日本の穀物輸送拠点となっています。現在は、大型貨物船が入港できるよう海底を掘り下げる航路浚渫の他、大型貨物船を活用した共同輸送に対応するため水島地区の岸壁整備を行っています。



整備中(玉島地区)



整備後(玉島地区)



## みなと学習会、現場見学会の実施

宇野港湾整備事務所では、港の役割や重要性を理解していただくために「みなと親子学習会」を実施しており、港がどのようなものなのか、どのように利用されているのかといったことを、港湾業務艇「たましおⅡ」での海上見学も交えて、学んでいただいております。また、工事現場見学会を開催し、実際に工事の様子を見学してもらうことで、港湾施設整備の施工方法についても理解を深めていただけるような取組も実施しています。



みなと学習会の様子



現場見学会の様子

**【目標】 2022年度:5回/年 → 2027年度:7回/年**



## 耐震強化岸壁の整備

水島港玉島地区において、コンテナ貨物の増加、船舶の大型化に対応するために国際物流コンテナターミナルの整備を行いました。南海トラフ地震等の大規模災害時においても物流機能を維持可能な耐震強化岸壁を整備しており、緊急物資等の輸送、災害時での経済活動における拠点としての機能を有しています。現在は、耐震強化岸壁の整備は完了し、船舶の大型化への対応、災害時にも対応可能な輸送ルート確保のため、航路の浚渫を行っています。



整備中(耐震強化岸壁)



整備後(耐震強化岸壁)

# 広島港湾・空港整備事務所におけるSDGsの達成に資する取組について

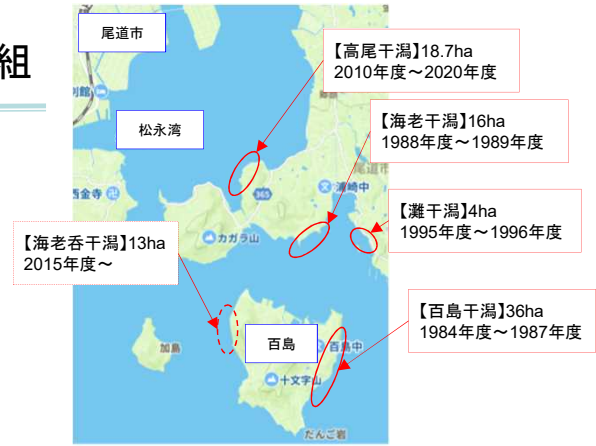
私ども広島港湾・空港整備事務所では、以下の取組をはじめとする各種取組を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献するとともに、広島県内の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図っています。



## 尾道系崎港 干潟・藻場再生への取組

高度経済成長期に、瀬戸内海沿岸地域の浅瀬の多くは工業地帯などへ姿を変え、自然の干潟や藻場は少なくなりました。そこで、1980年代から尾道系崎港の航路整備により発生した浚渫土砂を有効活用して干潟・藻場の再生に資する取り組みを行いました。

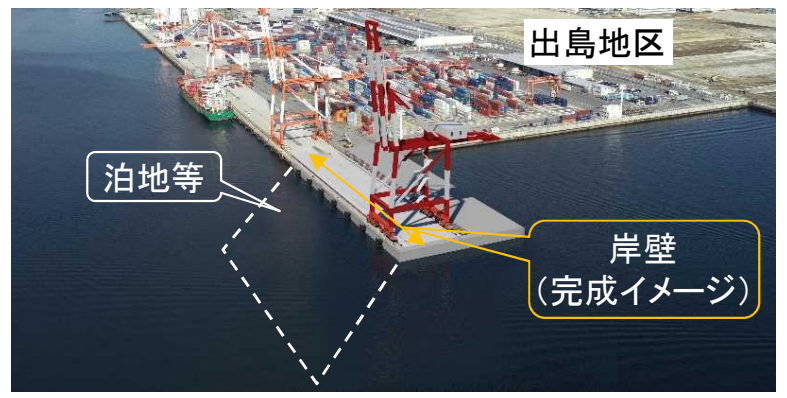
今後も百島海老呑(ももしまえびのみ)地区において、より良い環境創造、自然再生を目指して、浚渫土砂を有効に活用した干潟や藻場の再生に資する取り組みを進めて参ります。



## でじま 広島港出島地区国際海上コンテナターミナルの整備

広島港出島地区では、コンテナ船の大型化に対応するため、岸壁や泊地等の整備を行っています。

整備の効果として、部品等の大量輸送が可能となることによる背後企業のサプライチェーンの強靱化と安定的な物流網の確保、地域産業等の振興による経済の持続的な発展及び海上輸送距離の短縮によるCO<sub>2</sub>排出量の減少等が期待されます。



※泊地: 港湾内で船舶が安全に停泊することができる水面のこと。

# 広島港湾・空港整備事務所におけるSDGsの達成に資する取組について



## 広島港海岸の整備

広島市街地は、沿岸域に人口や資産が集積していますが、台風にともなう高潮により、広範囲にわたり度々被害を受けてきました。特に2004年の台風18号襲来時は、高潮による浸水に加え、護岸の倒壊などもあり、被害が拡大しました。このような高潮被害や、大規模地震による液状化及び津波から市民を守り、誰もが安全に安心して暮らせる地域を実現させるため、護岸の改良などを行っています。



整備前



整備後



## 見学会・出前講座の実施

広島港湾・空港整備事務所では、「みなと」について関心を持ってもらい、「みなと」の役割や重要性を理解していただくために「広島みなと親子見学会」、「出前講座」を実施しています。

広島みなと親子見学会、出前講座では、「みなと」がどのようなものなのか、どのように利用されているのかといったことを学んでいただけるよう、座学だけでなく、港湾業務艇「りゅうせい」に乗船し、海の上から「みなと」を見学するといった取り組みを実施しています。

【目標】 2022年度:3回/年 → 2024年度:5回/年



広島みなと親子見学会の様子  
(港湾業務艇「りゅうせい」にて)



出前講座の様子



## みなとオアシスでの取組

みなとオアシスでは、訪れる人たちにとって快適で利用しやすい施設の形成に向けた取り組みを実施しています。

クルーズ旅客等訪日外国人旅行者がストレスなく快適に観光を満喫できるようにみなとオアシスでは、多言語観光案内標識の整備、多目的トイレの設置などに取り組んでいます。

【目標】 毎年度:必要箇所



多言語観光案内標識の整備  
(みなとオアシス潮待ちの港 鞆の浦)



公衆トイレの改修  
(みなとオアシス三原)

# 宇部港湾・空港整備事務所におけるSDGsの達成に資する取組について

私ども宇部港湾・空港整備事務所では、以下の取組をはじめとする各種施策を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献するとともに、山口県内の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。



## 豊かな干潟・藻場再生への取組

徳山下松港の航路泊地整備により発生した浚渫土砂を有効活用し、瀬戸内海で喪失した浅場の再生に資すること等を目的に、周南市大島地区において約29haの人工干潟を造成しています。この干潟は、周南市、地域住民、漁協にて管理・保全されており、近年、アマモ場・コアマモ場といったブルーカーボン生態系が拡大していることから、脱炭素社会への貢献に期待されています。また、当事務所と関係者との連携により、地元の小学生を対象とした干潟を活用した環境学習「海辺の自然学校」を実施しており、豊かな海を次世代へ繋ぐ取り組みを行っています。



造成した人工干潟(大島干潟)全景



海辺の自然学校の様子



干潟の環境保全活動の様子

**【目標】海辺の自然学校に参加する小学生 2021年度まで延べ812人 → 2030年度まで延べ1,200人**



## 総合学習・出前講座・見学会の実施

宇部港湾・空港整備事務所では、港湾分野の担い手を育成するために、山口県内の大学生・高専生を対象として、「港湾工学」の授業を行っています。また、港湾工事や港の役割を学ぶための「出前講座」や、工事現場の「現場見学会」も随時開催しています。費用は無料ですので、気兼ねなくお問い合わせ下さい。連絡先: TEL 0834-31-0409(企画調整課)



学生向け現場見学会の様子



小学生向け出前講座(社会見学)の様子

**【目標】大学・高専の講座数 2021年度 3講座 → 2025年度 6講座**

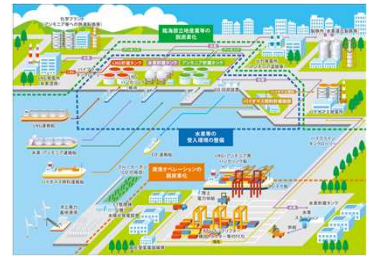


## 徳山下松港カーボンニュートラルポート形成への取り組み

西日本エリアへのエネルギー供給拠点としての役割を担う徳山下松港において、カーボンニュートラルポート(CNP)を形成するため、2021年2月に徳山下松港CNP検討会を立ち上げ、将来的に需要の拡大が予想される水素、アンモニア等の新たなエネルギー資源の活用に向けた検討を官民一体となって進めています。



検討会の様子



カーボンニュートラルポートのイメージ

**【目標】西日本エリアのエネルギー供給拠点港としての進化(2050年)**

# 広島港湾空港技術調査事務所におけるSDGsの達成に資する取組について

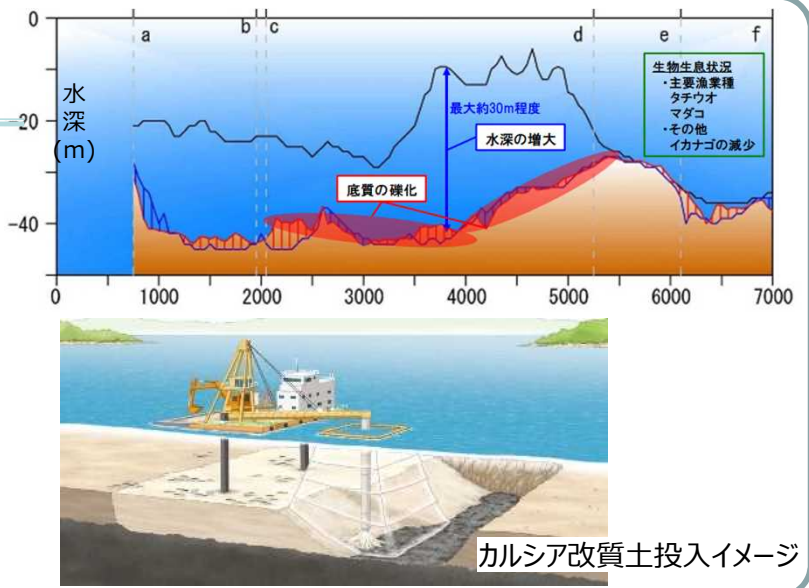
広島港湾空港技術調査事務所では、以下の取組をはじめとする各種取組を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献するとともに、地域の一層の発展を図ってまいります。



## 浚渫土砂を活用したカルシア改質土による環境修復技術の開発

港湾整備及び維持管理に伴い発生する浚渫土砂を有効活用し、高度経済成長期における大量の海砂採取により変化した瀬戸内海の海底地形や底質を修復することで、生物生息場の再生・創出を目指します。  
 瀬戸内海の家砂採取跡地には、潮流が速く、水深40mを超える厳しい海域もあり、浚渫土砂に製鉄の副産物である転炉系製鋼スラグを混入したカルシア改質土を海底に埋め戻す技術開発を進めています。

【目標】 2020年代に環境修復技術の本格活用を目指す

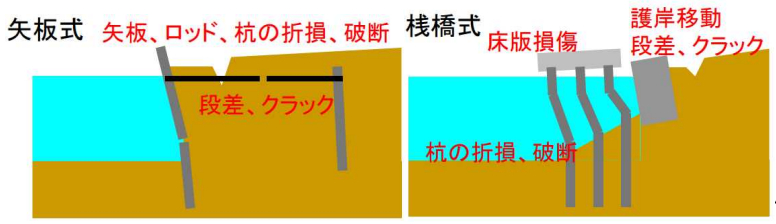


## 管内の大規模地震後における係留施設使用可否判定のための解析

大規模地震後において、係留施設は緊急物資輸送や物流機能維持として利用されることから、使用可否を迅速かつ適切に判断することが求められます。施設の被災状況については、基礎杭など鋼構造部分については目視で判明しないため、地震後の残留水平変位と損傷状態の関係について、事前に地震応答解析(FLIP)を用いて解析しておく技術を開発します。

また測量も地殻変動での基準点を使用できない可能性があるため、衛星による位置測量(RTK-GNSS方式)と組み合わせて「変位量調査・安定性評価支援システム(Berth Surveyor)」の導入を図ります。

【目標】 対象施設数 2022年度 12施設



係留施設使用可否判定の確認のイメージ